

【硝子体手術後の点眼液について】

硝子体の濁りがすすむのを予防したり濁りを和らげたりする薬として**カタリンク**や**タチオン点眼液**が使われていますが、濁ってしまうと手術が必要となります。

手術の後には、細菌感染を予防したり、炎症を抑えたりする目的で、**クラビット点眼液**、**リンデロンA点眼液**、**ジクロード点眼液**を使います。眼圧や炎症の程度によっても使い分けをします。

◇上手な点眼液の使い方

1. 手を洗って清潔に使いましょう。
 2. 点眼液の先が目やまつげにつかないようにしましょう。
 3. まぶたには触らず、目の下を引っ張ってさしましょう。
 4. 複数の目薬を使うときは、5分くらい待って次の目薬をさしましょう。
 5. 目薬をさしたら、目頭を押さえ1分ほど目を閉じておきましょう。薬液が鼻に流れていかないようにするためです。
- 同様の理由でまばたきはしないで下さい。

以上のことに注意しながら点眼を欠かさず続けて下さい。

目薬の効きをよくするために、指示された回数を守って上手にお使い下さい。

(薬剤師 塚原 健太郎)

【網膜症などの糖尿病による合併症を防ぐには】

食事療法は治療の基本となります。原則は、次のとおりです。

①**適切な量**のエネルギーを摂取しましょう。

標準体重【身長(m)×身長(m)×22】に25～30kcalをかけた数値が適正エネルギー量になります。

②**バランス**よく栄養をとりましょう。食事の質を考慮することも大切です。栄養の偏りも血糖コントロールの乱れにかかわってくるので体に必要な栄養素を色々な食品からとりましょう。

③**規則正しく**食事をとりましょう。血糖値の変動をできるだけ少なくするために、1日3食均等に配分し決まった時間に食事をとることを心掛けましょう。

当院では個人指導を行っております。主治医にご相談下さい。

(管理栄養士 佐藤 友美)

くす 通信

第47号
2002.7.1

硝子体手術を行う疾患
硝子体手術後の点眼液
糖尿病による合併症を防ぐには



くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。本紙はこのくすにあやかり、健康な生活を送るために情報を提供します。気楽に読んで健康を守りましょう。

診療時間 8:30~17:00

(診療受付時間 8:30~11:00)

ただし、急患はいつでも受診できます。

(診療科目) **総合医療センター**(総合診療科、血液・膠原病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、神経内科、呼吸器科)、**心臓血管センター**(循環器科、心臓血管外科)、**消化器病センター**(消化器科)、**救急医療センター**、精神科、神経科、小児科、外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、**感覚器センター**(眼科、耳鼻咽喉科)、気管食道科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科・口腔外科、人間ドック、脳ドック

感覚器センター(眼科)



現在私たち眼科は、手島倫子医長先生を筆頭に、米村尚子先生、そして私、越山靖夫の3人体制で診療にあたっています。週に2日(火・木)が手術日で、午前中が手島先生、午後からが

米村先生と越山という体制で手術を行っています。

これまでは、白内障を中心に、翼状片、眼瞼下垂などの手術を行ってきましたが、本年より手術器械・器具を一新し、硝子体手術・網膜剥離手術を行うようになりました。

これによって、県内では硝子体手術を行う施設がたったの2ヶ所だったものが、当院で3ヶ所となり、熊本県内の重症な眼科疾患を受け入れる体制が整ってきました。

【硝子体手術を行う疾患】

この**硝子体手術**が対象としている疾患には、次のようなものがあります。

黄斑円孔：視力に一番大切な網膜の中心である「黄斑」に穴があく疾患です。失明することはありませんが、見ようとするちょうど中心だけが見えず、字を読むことができません。数年前までは、治療不可能でしたが、**硝子体手術**の登場によって劇的に視力が改善するようになりました。

黄斑上膜：網膜の「黄斑」の表面に薄い「かさぶた」ができ、これが網膜を「しわしわ」にします。このため、患者さんは「ゆがんで見える」と感じるようになり、視力が低下してきます。やはり硝子体手術の登場によって、網膜の上の「かさぶた(上膜)」をはぎ取ることで、網膜のしわがとれ、治癒するようになりました。

糖尿病網膜症などの硝子体出血：眼球には硝子体と呼ばれる、卵の白身の様などろりとした透明なものがつまっています。この本来透明な硝子体が出血によって濁ることで、光が目の奥まで届かずに見えなくなる疾患です。手術によって濁った硝子体を取り除き、

出血の元になった増殖膜(かさぶた)や、新生血管を取り除きます。糖尿病網膜症ではこれまで失明寸前にまでなって、最後にこの**硝子体手術**を行ってきたため、せっかく手術しても視力があまりでないことがしばしばでしたが、近年はできるだけ早期にこの手術を行うことで、糖尿病網膜症の視力予後が長期的にも大幅に改善してきました。

網膜剥離：網膜に穴が開くことで、穴から水分が網膜と眼球壁の間に潜り込み、網膜が壁からはがれてしまう病気です。はがれてしまった網膜は栄養を失い、死んでいきます。

硝子体手術によって、網膜下から水を抜き、眼内を空気で満たして網膜を壁にくっつけてあげると、**網膜剥離**が進行して失明することを防ぐことができます。

(感覚器センター 眼科 越山 靖夫)



国立熊本病院

〒860-0008 熊本市二の丸1-5

電話 096 (353) 6501 (代表)

FAX 096 (325) 2519

ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~knh>